

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

「AYA世代がん患者の妊孕性温存に関する研究：岐阜モデルの調査および検証」

研究分担者 森重健一郎 岐阜大学大学院医学系研究科・産科婦人科学分野 教授

研究要旨：AYA 世代がん患者の妊孕性に関する諸問題の支援のため、大規模調査の結果の解析、および医療連携全国展開を目的とし、その先駆的ネットワークである岐阜モデルの充実のためのネットワークセミナー開催（岐阜市：2017年1月27日）とネットワーク内での問題点の検証を行った。さらに、看護師、相談員に関する啓発活動も行った。

A．研究目的

AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療提供体制の全国展開を目的とし、岐阜モデルでの問題点や課題の検証、啓発活動および人材育成を行うことを目的とする。

B．研究方法

大規模調査において、生殖小班が担当した質問項目を中心とした妊孕性に関する結果解析により、ネットワーク構築地域と非構築地域での差異を解析。岐阜県がん・生殖医療ネットワークセミナー（1/27）での議論を通じた課題抽出と啓発活動を行った。

岐阜県がん生殖医療ネットワーク参加者の継続的变化、岐阜大学病院がん・生殖医療相談外来への相談患者の傾向の解析

岐阜モデルの質的向上を目的とし、市民公開講座での講演、看護師・相談員のセミナー参加支援を行った。

C．研究結果

大規模調査の生殖小班担当部分を中心とした結果解析では、ネットワーク構築地域と非構築地域における情報提供に関して、がん治療医の実施、患者の被実施を比較したが、ネットワーク構築地域に限定した場合の回答数が少なく、差異を認めなかった。一方、専門医調査において、ネットワーク構築での医療連携活用した妊孕性に関する情報提供実施が有意に多かった。

岐阜県がん・生殖医療ネットワークセミナーでは県内および近隣他県から、毎年70名を超える関係者の参加を認め、当初医師をスタートした勉強会も、看護師・相談員、薬剤師など幅広いヘルスケアプロバイダーへの広まりを認めている。

岐阜県がん・生殖医療ネットワークを構成している岐阜大学病院において、岐阜県内および愛知県西部地方を中心に毎月3名程度の情報提供受診者の需要があった。また、男性受信者は近隣施設からの紹介が主体で、女性は県外からの紹介患者が1/3程度を占め市内および近隣都市からの紹介は約半数であった。一方、情報提供体制に関しては、説明担当者が当初の医師1人体制から、医師と看護師2名による情報提供と心理支援体制と改善を達成した。また、担当医師は2人、看護師は4人と増加した、看護師2名は不妊コーディネータの資格取得をした。

D．考察

大規模調査において、患者およびがん治療従事者におけるがん・生殖医療連携の整備に関するニーズは高かった。また、岐阜モデルの取り組みにおいて、行政単位を越えた情報提供拠点施設の必要性が示唆された。今後、がん治療学会のガイドラインの整備等がニーズをさらに増大させる可能性が考えられる。また、相談員をはじめとした医療スタッフへの啓発や学習の支援は医療連携の活性化に効果的と考えられた。

E．結論

がん・生殖医療連携体制の地域への普及において、情報提供施設の拠点化、地域での情報交換の活性化、看護師・相談員への啓発、学習支援が奏功すると思われる。

G．研究発表

1. 論文発表

古井辰郎、牧野弘、竹中基記、菊野享子、森重健一郎：AYA世代癌患者の性腺機能障害、妊孕性低下に関する諸問題と医療連携の重要性．日本小児血液がん学会雑誌 53(3) 212-218, 2016
Lauren M. Ataman, Jhenifer K. Rodrigues, Ricardo M. Marinho, João P.J. Caetano, aurício B. Chehin, Eduardo L. Alves da, Motta, Paulo Serafini, Suzuki N, Furui T, Takae S, Sugishita Y, Morishige K-I, Teresa Almeida-Santos, Cláudia Melo, Karen Buzaglo, Kate Irwin, W. Hamish Wallace, Richard A. Anderson, Roderick T. Mitchell, Evelyn E. Telfer, Satish K. Adiga: Creating a Global Community of Practice for Oncofertility. Journal of Global Oncology. 2(2):83-96. 2016
Kawai N, Kato H, Kanematsu M, Kawaguchi S, Kojima T, Furui T, Morishige K-I, Matsuo M : Usefulness of T2*-weighted MRI in the detection of adnexal torsion. Acta Radiologica Open. 5(6):1-7. doi: 10.1177/2058460116645375, 2016
森重健一郎：若年がん患者の妊孕性温存．千葉県産科婦人科医学会雑誌 10(2) ; 89-90 , 2017

2. 学会発表

森重健一郎：岐阜県飛騨地域における周産期体制の再構築について．平成 28 年度大阪母性衛生学会総会(大阪)H28.6.19

森重健一郎：若年がん患者の妊孕性温存について．千葉県産科婦人科医科学会平成 28 年度定時社員総会・学術講演会(千葉)H28.6.26

森重健一郎：婦人科がんの妊孕性温存治療．第 23 回中四国 GnRH 研究会（岡山）H28.8.27

森重健一郎：卵巣がんの妊孕性温存手術とがん・生殖医療．JSAWI.org 第 17 回シンポジウムイブニングセミナー(淡路)H28.9.2-3

森重健一郎：婦人科がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン 小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成のためのコンセンサスミーティングプログラム．第 54 回日本癌治療学会学術集会（横浜）H28.10.20-22

森重健一郎：婦人科がん治療における QOL の視点 妊孕性温存から再発治療まで．第 274 回広島市臨床産婦人科医会研修会(広島)H28.10.27

森重健一郎：婦人科がんの妊孕性温存治療．第 14 回長野県婦人科腫瘍懇話会(長野)H29.1.28

森重健一郎：婦人科がん治療における QOL の視点．京都婦人科がん治療研究会(京都)H29.2.18

H．知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし